



医学部医学科

THE JIKEI UNIVERSITY SCHOOL OF MEDICINE



教育理念

医学科の教育理念は『医学の基本である“知識・技能・医の心”を学ぶことによって医学を深く理解し、豊かな人間性と理論的・科学的判断力を涵養することです。このことは、「病気を診ずして病人を診よ」という建学の精神に基づいて、全人的な医学・医療を実践するための礎を作ることです』と定められています。

豊かな人間性とバランスのとれた知識・技術を習得

本学は豊かな人間性とバランスのとれた知識と技術を身につけている良き臨床医、および研究の目的をよく理解して、深い知識と斬新な実験技術とを十分に駆使し、オリジナリティのある研究を行うことができる、良識ある医学研究者を養成する大学です。

自ら医学の道を選び入学してくる学生諸君には、医学に必要な基本的知識や技能・態度を習得すると共に、ますます専門化している医学知識や技能だけに目を奪われることなく、社会的良識の上に立って、さまざまな問題を解決する能力が必要です。

本学の教育の基本は、疾病を克服し、人類の健康を増進するための医学の基本的知識や技能ならびに態度・習慣を習得することですが、その上に「病気を診ずして病人を診よ」という建学の精神に基づいた人間性豊かな医師になるための責任感、使命感、および倫理観を身につけ、実践することを重視しています。

このような考え方にに基づき6年間をととしたカリキュラムが編成されています。本学では、たえずカリキュラムを見直し、改善を図っています。平成8年度に大幅なカリキュラム改訂を行いました。平成14年度からはさらなる改訂を行った新しいカリキュラムが始まりました。医学科のカリキュラムは6年一貫・統合型カリキュラムで、次ページの図のようにコースに分けられ、順序よく配置されています。各コースは、さらに授業科目に相当するユニットから構成されています。



医学総論Ⅰでの患者さんから学ぶ授業

■ カリキュラム

1年生	2年生	3年生
総合教育	基礎医学	基礎医学
医学総論 I	医学総論 II	医学総論 III
総合教育	基礎医科学 I	臨床基礎医学 I
生命基礎科学	基礎医科学 II	臨床基礎医学 II
外国語 I	外国語 II	社会医学 I
医療情報・EBM I	医療情報・EBM II	外国語 III
		医療情報・EBM III

研究室配属



医学総論 I での市民参加型授業

入学すると、緑の多い環境の中にある国領校で、医学生としての生活の第一歩を踏み出します。明るい講義室にクラス全員が集って行われる講義、ロールプレイ実習から、少人数による演習まで多彩なカリキュラムが用意されています。生命基礎科学の実習や演習をおして、自然科学の基礎を習得します。また、体育館やグラウンドでさやかに汗を流します。



神経生理学研究室での研究室配属

■ 医学総論 I ~ VI

医学総論では医に関する諸問題、即ち倫理、インフォームドコンセント、患者安全、コミュニケーション、チーム医療などについて考えるとともに、医学・医療が自然科学のみでなく、人文・社会科学などを含んだ実践的総合科学であることを強調します。

このコース内に早期臨床体験 (Early Clinical Exposure)、福祉体験実習、重症心身障害児療育体験実習、地域子育て支援体験実習、在宅ケア実習、病院業務実習等が含まれています。2年次からプライマリケア・選択学外臨床実習、3年次から産業医実習など学外病院での幅広い診療実習も選択できます。

■ 総合教育

人文科学、社会科学、日本語、数学、教養ゼミのユニットから構成されます。開講科目を増やし、少人数編成で授業が進みます。このコースでは、人間性や倫理的判断力を養うとともに、患者さんを一人の人間としてその文化的・社会的背景を理解し、それを医療の現場に活用できる能力 (包括的医療の実践者) を養成することを目的としています。また、グループ討論学習という生涯学習にとって最も重要な学習技能の基礎も身につけます。

■ 生命基礎科学

生命現象を理解するための自然科学 (生物学、物理学、化学) の統合カリキュラムです。生命の物理学、生体分子の化学、細胞の生物学を学びます。1年生前期には、これらのユニットを学習するためのサポートとして、自然科学入門演習というユニットを用意しています。高等

学校までの教育で不足している分野の補習を行いながら、臨床医学の基盤をなす自然科学を理解しやすいようにカリキュラムが組まれています。

■ 外国語 I ~ IV

1年生から4年生まで継続的にコースが組まれています。1年生では一般英語と初習外国語、2年生以降では一般英語と医学英語が組まれています。英語教育は少人数クラス編成 (10名程度) で行われ、学生の能力に合った学習を行います。3年生以降では、医学の代表的な教科書、医学雑誌を医系教員とともに講読したり、臨床場面を想定した医療英会話の演習をしています。グローバルスタンダードとしての英語力を身につけます。

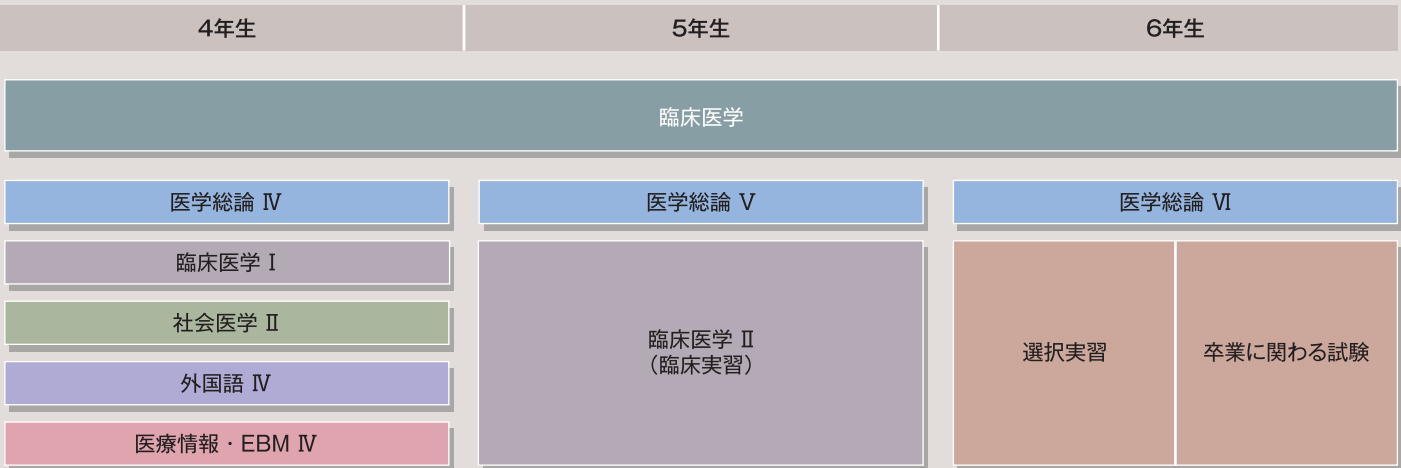
■ 基礎医科学 I・II

2年生前期の基礎医科学Iでは分子生物学、代謝、ホメオスタシス、運動器系の構造と機能などを、2年生後期の基礎医科学IIでは人体を構成する器官系の正常機能と構造を統合的に学びます。各器官系の機能を学びながら、その器官の肉眼的構造と組織学的構造を学習できるようにカリキュラムが組まれています。

■ 臨床基礎医学 I・II

このコースでは個体という概念を学びます。コース基礎医科学IIで器官系について学習した知識をつみ上げ、病態学を介して人体を器官系の有機的結合、即ち個体として理解します。3年生前期の臨床基礎医学Iでは主に病態を、後期の臨床基礎医学IIでは個体を侵す感染症をテーマに基礎医学と臨床医学の連携のなかで学びます。

コース内にある症候学演習は、問題解決型学習を導入するために設



医学は知識を書物から得るだけでなく、実際に体験することが大切です。臨床基礎医学の演習では、教員と質疑応答を行うことにより、ものごとを論理的に考えることを学び、科学としての医学の基礎を身につけます。“研究室配属”のコースでは、実際に研究室に入り、医学研究の一端に触れます。



病棟での臨床実習

臨床実習では、診療チームの一員として指導医と一緒に直接患者さんに接して、患者さんの病態を理解し、診断と治療の実際を学びます。また、手術室に入り手術を見学することもあります。患者さんを診た後、少人数で指導医と質疑応答をすることにより、病気に対する理解をより深めます。

けられました。これからのカリキュラムの主流と考えられているものです(チュートリアル)。学生がスモールグループで、能動的に基礎医学の知識を駆使し、臨床例を解析する教育プログラムで、これにより学生の論点抽出、論理力、自己学習、表現力を向上させることを目的としています。

■ 医療情報・EBM I～IV

このコースでは将来、医師として科学的な臨床研究が行えるよう、疫学的手法を用いた研究計画の立案および解析方法を理解するとともに、優れた臨床研究の結果に基づいた最善の治療法を選択できるよう、疫学と生物統計学の基本を身につけます。

■ 臨床医学 I・II

4年生の臨床医学Iでは、機能・臓器別の統合講義、病理学各論実習、そして臨床推論トレーニングとしてのチュートリアル(少人数による学生主体の討論学習)を有機的に組み合わせた統合カリキュラムが組まれています。4年生後期は、臨床実習開始前にあたります。ここでは、集中的に医療面接、診療記録作成、身体診察法、基本的検査手技とその結果の解釈、基本的臨床手技(採血、縫合、救急医学、治療総論など)の実習を中心に実技トレーニングを行います。基本的臨床知識・技能・態度を客観的臨床能力試験(OSCE)で評価し、この試験に合格して初めて臨床実習に進むことができます。5年生の臨床医学IIは臨床実習です。学生は病棟の診療チームの一員として指導医の監督のもと、患者さんの診療に参加します(クリニカル・クラークシップ)。今までに学習してきた知識・技能・態度を駆使し、包括的医療の実際を経験します。5年次修了時には、基本的臨床能力を測る5年生OSCEが実施されます。

■ 研究室配属

基礎・臨床医学系講座、総合医科学研究センターなどに配属され、教員とともに研究活動を行い、共同研究者として過ごします。自然現象を正しく認識し、その現象を解析するための実験・観察方法を考え、データの信頼性、再現性を考察し、結論を出すことを体験します。このコースで身につけた問題解決能力、自己学習の方法は将来臨床医になった際にも役立つものです。

■ 社会医学 I・II

社会医学では、個体-個体、個体-社会、個体-環境の相互作用としての医学を学びます。社会の中で生きている人間が疾患を持った時、その患者さんを地域社会と関連付けて考える能力を養います。社会医学IIは臨床医学の講義の後に実施されます。疾患の知識を得た後、予防医学の知識とその実践の方法を身につけます。また、医学と社会の連携で重要な法律的、倫理的問題についても学び、患者さんの人権を尊重する医師になる基盤をつくります。

■ 選択実習

5年生の基本的臨床実習が終わると、6年生前期には学生自身がカリキュラムを設計し、それを実践する選択実習(15週間)というコースに入ります。附属病院の診療部、学外病院、外国の大学・病院での臨床実習、さらに学生によっては国内外の基礎医学研究施設での基礎研究や社会医学的フィールド研究を行うこともできます。英国ロンドンにある姉妹校のKing's College London(旧セントトーマス病院医学校)には毎年数名が大学から奨学金を得て選択実習に行く制度があります。

医学の基礎となる人体の構造と機能を学ぶ

2年生から西新橋校に移ると、いよいよ本格的な医学の専門教育が開始されます。学習の場が国領校から西新橋校へと移ることは、学生諸君が国領校で医師や医学者になるための心構えが十分にできたかをもう一度確認するためのよい機会となります。

西新橋校でのカリキュラムは医学の専門領域が中心であり、コース、ユニットを教育単位とした統合型カリキュラムで教育が行われます。しかし、医師としての人間性、倫理的判断力、国際性、患者さんとのコミュニケーション能力などを養う医学総論カリキュラムは国領校から引き続いて6年生までとおして行われます。具体的には、医学総論演習、学外実習、病院業務実習、プライマリケア・選択学外臨床実習、産業医実習などがこれに相当し、本学独特のカリキュラムのひとつです。“生命の科学”では、科学的判断力と創造力を養い、新しい医療技術を開発して駆使できる素養を習得するために、基礎医学、社会医学、臨床医学の各領域がそれぞれ有機的に連携したカリキュラムとなっており、これも本学の特徴のひとつです。基礎医科学、臨床基

礎医学、社会医学などのコースがあり、できる限り実習・演習と少人数グループでの教育を重視しています。特筆すべきは“医療情報・EBM”のコースで、将来医師として客観的データに基づいた医療が実践できるための基礎を学びます。

“研究”では、研究室配属のコースにおいて、学生が自ら研究テーマを選び教員の指導のもと、6週間にわたり終日、医学研究に従事することにより、創造性と問題解決能力を養い、教員との交流を深めることができます。

4年生から6年生にかけては臨床医学教育が主体となります。ここでは本学の建学の精神である全人的医療が実践できるための基本的知識・技術と態度を習得します。また、選択実習カリキュラムでは基礎医学、臨床医学、社会医学を問わず、4ヶ月(15週間)にわたり自ら選択した領域を少人数で実習する機会が与えられています。

このように、西新橋校では、人体の構造と機能から臨床医学、社会医学まで、医学と医療の基礎を有機的、かつ統合的に学習できるカリキュラムとなっています。



慈恵医大が所有する貴重な医学標本
血管系を示した铸型標本



医療情報EBMIIの演習



外国語Ⅰの講義



基礎医科学Ⅱの組織学実習



免疫学の实習



医学総論Ⅲ・Ⅳでの薬害肝炎の講義

■ 教授からのメッセージ

「学ぶ姿勢」を大切に

医師になることをめざしている諸君には、それぞれが思い描いている夢があると思います。その夢は人に信頼される優れた臨床医になることかも知れないし、未知の領域に立ち向かう基礎医学の研究者になることかも知れません。諸君にはその夢の実現に向けて、初心を忘れることなく、謙虚に常に学ぶ姿勢を持ち続けて頂きたい。深く学ぶことはまた、自ずと謙虚さを身につけることにもなります。そのことは単に知識の習得のみならず、医師としての大切な条件である人間性を養う上においても大変大事なことだと思います。その態度がやがては発展的あるいは創造的な仕事に結びつき、より深い人間の理解を可能にすると考えるからです。目的意識を持って、しっかりと足元を見つめ豊かな学生生活を送って頂きたいと思います。私どもの大学はそれに相応しい場と確信致しております。



羽野 寛 教授
医学科長
病理学

科学のこころを持った医師・医学研究者に

本学の先達は独創的な研究で医学の進歩に大いに貢献してきました。優れた臨床医を世に送り出すことだけが本学の伝統ではありません。私たち基礎医学の教員は、それぞれ専門の研究テーマを持って真理の解明をめざしている医学研究者です。そして、皆さんの科学的なものの考え方を大切に育んでいきたいと思っています。医学の知とその元になった研究を理解し、科学的な判断を下せることが、優れた医師になるための条件だと思うからです。そのために講義や実習・演習を充実させ、私たちの研究の現場に触れることができる研究室配属などのカリキュラムを用意しています。学生時代から自主的に医学研究を始めるのも大歓迎です。



松藤 千弥 教授
教学委員長
分子生物学

カリキュラム以上のことを学ぶ

本学では6年一貫・統合型カリキュラムを実践してきましたが、同様のカリキュラムはすでにめずらしいものではなくなりました。至れり尽くせりのカリキュラムは学び易い反面、学習態度が「受け身」になりがちです。一旦受け身となれば自然と視野は狭くなり、自身の将来像やキャリアパスに夢を抱き行動するはずの学生生活が実に空虚なものになってしまいます。本学では、毎年卒業生の約8割が附属病院に従事し、先輩医師たちが後進を指導します。基礎医学講座においてもたくさんの先輩医師たちが学生の指導にあっています。これは本学創成期からの伝統です。日々のカリキュラムを同級生とともにこなしていくだけでなく、講座や研究室に顔を出し、先輩医師たちと話をしてみてください。たわいない世間話の中にも、自身の将来像を考える上で大きなヒントとなる話があります。カリキュラムには書かれていないたくさんの学びがこの大学にはあるのです。



岡部 正隆 教授
解剖学(組織・発生)

学問分野のみに特化せず総合的に病気を学ぶ

建学の精神に基づいた“最良の医師”を養成するための臨床医学教育は4年生から始まります。講義、病理学実習とテュートリアル（少人数による問題解決型の教育法）により臓器・機能別統合教育を受けます。講義といっても従来の内科学あるいは外科学といった学問分野別の講義ではなく、臨床各科、臨床病理、臨床薬理などを統合した臓器・機能別系統講義となります。これにより多くの知識を系統的に効率よく習得でき、さらに病気というものを総合的に考える力が養われます。

テュートリアルによる教育は教員がまず学生に病気の例を提示し、学生はこの中から問題点を抽出し、解答を模索します。この間、教員は問題を解決するための手段や方向を示すだけで、解答はあくまで学生に作成させるといった教育法です。このような教育法により、学生は従来の受け身の学習から、自ら問題意識を持ち積極的に学習する姿勢を身につけることができますようになります。

4年生後期では5年生での臨床実習に備え、基本的臨床能力養成のための実習や演習をととして医療面接、診断学、臨床検査、画像診断治療学などを集中的に学びます。

5年生になると、講義で学んだことを基に少人数グループによる臨床実習が始まります。ここでは実際に患者さんを診察したり、手術に立ち合うことにより生きた医学を学びます。また臨床実習では、単に医療技術や知識の習得だけでなく、患者さんやそのご家族と話し合うなかで、人と人とのふれあい、奉仕の心、人が生きることの意味など、様々なことを学びます。

6年生になると学生自身による自己計画により、いくつかの診療科を選択し内容の濃い実習が行われます。このなかで学生と指導医は、医師としての夢、自らが求める医師像を語り合い、人間同士の絆を強めていきます。さらに広い視野に立ち、物事が考えられるように、選択実習では本学に限らず他施設や、海外での実習も認められています。選択実習では、毎年3名に奨学金を授与し、姉妹校である「英国ロンドン大学 King's College London (旧セント・トーマス病院医学校)」で臨床実習を行う制度もあります。卒業近くになると、学生が自らの課題を克服するために教員が学習支援をする選択ゼミも準備されています。

その成果は、筆記試験だけでなく客観的臨床能力試験 (Objective Structured Clinical Examination, OSCE) によって評価されます。

6年間の卒前教育を修了すると、臨床医をめざす学生にはその延長上に5年間の卒後臨床研修が待っています。このうち最初の2年間の初期臨床研修コースでは、研修プログラムに従って1～6ヶ月ずついろいろな診療科をまわる研修が行われます。また、その後の3年間の専門修得 (レジデント) コースでは、各専門科に分れて学内外の病院などで研修を行い、専門的な知識や技能を研鑽します。

このように卒前教育、卒後教育を通じて全員が臨床医学を十分にそして幅広く研修し、全人的医療を行うと同時に、国際的にも高度なレベルで医療を実践する基礎をつくります。

シミュレーション教育施設

本学では文部科学省平成15年度特色ある大学教育支援プログラム「医療者（専門職業職者）育成のための学習評価システム」の補助を受け、スキルス・ラボ（診療技能実習教育施設）を平成15年度に西新橋校、平成17年度には国領校に設置しました。一つの医科大学で2つのスキルス・ラボを運営しているのは本学のみです。医学生は、このスキルス・ラボでシミュレータ（マネキン）を用い、診察技術（心音・

呼吸音聴取、直腸診、乳房診察、産科的診察法、心電図、超音波診察、眼底鏡、耳鏡など）や治療手技（救急蘇生、静脈採血、膀胱カテーテル、中心静脈カテーテル、腰椎穿刺など）をトレーニングしてから、臨床実習で患者さんに会うこととなります。特に、本学ではスキルス・ラボにビデオ装置を完備し、学生が行った手技を記録し、学生が自分自身の手技を「振り返る」実習が可能となっています（振り返り学習）。この振り返り学習という手法は、現代の学習理論に基いた Evidence-based Medical Education の一つです。

現代の医学教育では、このようなシミュレータを用いた診療技能教育がどんどん導入されつつあります。本学はスキルス・ラボを早期に導入しただけでなく、平成22年4月からは西新橋校スキルス・ラボを旧病棟に移転させ、その規模の拡大を行ないました。名称も、「シミュレーション教育施設」と改称し、30人規模の一斉講義ができる「セミナー室」、種々の広さを持つ「実習室」を8部屋、実習生が休憩を取れるロビーを設置しました。規模の面でも、シミュレータの数でも全国有数のシミュレーション教育施設となりました。この施設は医学生の診療技能教育だけではなく、看護学科、大学院、臨床研修医、そして病院スタッフ、地域医療者の学習の場にもなっています。



静脈採血の実習風景
教員の指導のもと、静脈採血のトレーニングを行なっています。

腰椎穿刺の実習風景
腰椎穿刺シミュレータを3台並べ三人が同時に腰椎穿刺のトレーニングを行なっています。